

学校当局、権力(林動隊)に抗し、反撃せよ

本日、登校された全学生の学友諸君！！

六四六衆団交に於て、当局は、掲示板にはりつけた一枚の紙切れによつて、我々の切実な要求を正殺してしまつた。しかし我々は、時間余も、当局の出席を待たせられたけれども、当局は、少数の教授で、お茶どに「そつと企てた」が、責任者は、一切登場せず、林動隊ド入で答えたのだ。我々は、最後の屈辱を正当な論議を基質とした抗議行動に転じて、圧倒的な学友のデモンストレーションをもち勝ち取つた。しかし、学友諸君！！この時、職員が犯罪的にモニターで学友の一人に切りつけ、負傷させたのだ。そして又、多くの学友が、職員右翼、体育会による傷つけられたのだ。

当局が話し合いを一方的に放棄したことは、我々の抗議行動以外には、我々の闘いの進展のありえないことを明らかにした。そして、更に又「良言と知性」の本質を全面的に暴露したのだ。今こそ、我々の闘いが、専横の年の暗い抑圧と反动の丁度打ち砕く闘いであり、中教審答申—大学立法のモデル校を粉砕しぬく闘いであることを確認しなければならぬ。三十六名の国家権力—林動隊による、不当逮捕を弾劾しなければならぬ。権力と当局がまた一体となり職員が学友を権力に支配し殺してゐるのだ。我々は教職員暴力団、右翼体育会更に国家権力を粉砕しぬく以外に我々の闘いが、一歩も進まぬことを確認しなければならぬ。だが今、当局は体育会右翼、職員を使って戒厳令をひいて、全面的な弾圧攻撃に出ている。しかし学友諸君！！全共斗は三十六名の不当逮捕という状況にあつても、断固として、体育会職員右翼、林動隊を粉砕しぬいて行くであろう。我々は、権力、当局がどんなに暴力的な、全くの偽マンゴシかない反暴力を準備し、弾圧しようとも、又暴力的に弾圧しようとも、復讐の、犯罪的な本質を、はつきり見抜いてゐるし、闘いの正当性と正義性を確認するが故に、全共斗は最後の最後まで闘いぬいて行くことを、はつきりと宣言しようではないか。

全この学友はクラスゼミサークルに於て、当局の犯罪性と国家権力の弾圧攻撃に対し、抗議文をもち反撃しなければならぬ。全この学友は各斗争委員会に結束し、壮烈な反撃を開始せよ。全共斗は、学内反革命を、大衆的暴力斗争に上る粉砕しぬいて行くであろうし、最後の最後まで、非妥協的に闘いぬいて行くことを宣言する。

抑圧された暗い丁度、自己の手によつて切りぬいて行くのではないか！！決然することは、当局に権力を救けること以外の、何ものでもないのだ。

全この学友諸君！！当局の甘言に惑わされてはならぬ。九項目、大学立法を一切語らずして、全面的な弾圧体制を—ける攻撃—て来るその本質を見抜き、闘い抜いて行くことを、はつきりと確認しなければならぬ。

クラスゼミサークルに於て抗議文をもち起て、全共斗。